

No.	資料	ページ 番号	項目等	意見等 ※総合計画会派別説明会での質疑も一緒に掲載しています	対応の方向性	担当部	
1	1	—	全体	これからの将来展望が伝わってこない。従前の説明ではビジョン型という事であったが、実際に今回の資料を拝読すると、かなりの部分で従来通りの既存事業の積み上げ型の発想によって基本計画が作られているように見受けられる。	②計画に趣旨を反映します。	第1次北名古屋市総合計画を継承した構成としていますが、主要施策を構成する各種取組については、方針を示す文案に留めながらも、伝わりにくい方針については具体的な取組を示しながら方針を示しています。なお、審議会での指摘等を踏まえ適宜修正します。	総務部
2	1	—	全体	資料としても、将来像としての基本理念と、基本計画・分野別計画との関係性・一貫性が分からない。	⑤既に計画に盛り込まれています。	基本構想と基本計画・分野別計画の関係性は、「基本理念」を踏まえ、「めざすまちの姿」があり、「めざすまちの姿」の実現に向けて、6分野のまちづくり目標のもと、分野別計画を推進していくという体系とし、つながりを持たせています。	総務部
3	1	1	1 計画策定の背景	団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題を懸念している。資料1の1ページに超高齢社会について記述があるが、計画の最終年度が2027年であり、その対応は考えられているか。また、政府では70歳まで働けるような方針も検討されており、どう捉えていくかを課題として認識している。	⑤既に計画に盛り込まれています。	高齢化社会への対応が重要と認識しており、施策での対応としては、資料3の1-4高齢者福祉の施策において、取組の方針を示しています。	総務部
4	1	1	3 計画の構成	新市建設計画を踏まえ、第1次総合計画が策定されたことは理解している。他市では、議会と市が一緒になって、約3年周期で総合計画を検証している事例もあった。そういった視点も必要であり、具体的な取組を実施計画で示すことを考えていきたい。	②計画に趣旨を反映します。	計画の進捗管理のツールとして指標を掲載しています。実施計画は、何をどのようにやっていくのかを具体的に示すものにしていきます。	総務部
5	1	12	3 リニアインパクトへの期待とその活用	リニアインパクトについての考察について、東京でも学識者たちは同じように研究している。近々大阪まで開通すると名古屋を通過し、大阪に行くようになり、40分で東京まで行けるようになり、みんな東京で働くようになるのではないか。住宅地としての魅力を作るのか、産業を持ってくるのか、さらに東京の一極集中が進むのではないか、大阪や東京も同じことを考えており、同じことをやっていたら、どこか衰退するようになる。遊びに行くには良いかもしれないが、働くことを考えると東京周辺に住んだ方が良くない。	⑥その他	4人の有識者からは、客観的な意見として頂いています。どういう影響があるか危惧するところも書かれているため、「資料5 リニアインパクトに係る有識者ヒアリング」を一度ご一読いただきたい。	総務部

No.	資料	ページ 番号	項目等	意見等 ※総合計画会派別説明会での質疑も一緒に掲載しています	対応の方向性	担当部	
6	1	14	5 地域運営の重要性	新市建設計画で自治会の見直しをしようとしたがあまりにも経費がかかるため取り止めになった。今見ると、大きな自治会もあれば、すごく小さい自治会もある。格差がある中で、地域運営の重要性といった形で地域運営の総合力を高めるという事は、更なる格差が出てくると感じている。今北名古屋は合併を検討しているが、合併を前向きに考えていければ名古屋市に合わせ、自治会は小学校区でまとめていく考え方もある。そのことが書かれていないが、その辺どう考えているのか。	⑤既に計画に盛り込まれています。	第1次総合計画の中にも検討していくといった形で記載していましたが、基本計画のコミュニティの主要施策の4番目で、「④地域自治の充実」というところで、「地域における自治力を高めるために自律的に地域を運営する地域コミュニティのあり方を検討します」とし、「○地域自治組織の検討」という部分が、ご指摘の校区での自治会とあった部分を含めた記述になっています。また、岩崎学長の講演会の中でも小学校区を中心として自治会とか他の地域の団体が集まって自治組織を作っていく必要性が語られており、自治会はこれから高齢化が進み、成り手不足の問題等もあるため、校区ごとの自治会は検討課題であると認識しています。自治会が財産を持っていたりするため、難しい部分もあるが、検討は進めていきます。	総務部
7	1	15	基本理念	1. 「こころ」「からだ」「まち」の3項目の説明が、同じ言葉の繰り返しで書かれており、どういうことを目指すのか説明になっていない。	⑥その他	市民の精神的及び身体的なことに加え、まちの健全な状態の要素を「健康」という言葉に関連付けており、3つの健康を土台に、市民がいきいきと活躍することを支援し、活力あるまちをめざすという意味です。	総務部
8	1	15	基本理念	2. タイトルに「便利で安全・安心な」とあるが、予算の限りもあるなかで「選択と集中」を進めるべく優先順位をつけることが述べられるべき時期ではないか。	①計画に盛り込みます。	「第1編 序論」の「第5章 社会動向」の「計画に求められる視点」において、文章を精査します。	総務部

No.	資料	ページ 番号	項目等	意見等 ※総合計画会派別説明会での質疑も一緒に掲載しています	対応の方向性	担当部	
9	2	2	将来人口の推計	現在85,000人を超えているが、資料2のグラフにそのことが表れていないし、今後の推計でも85,000人を超えていない。社人研の国勢調査をベースに推計していることは理解しているが、人口推計も北名古屋市独自の推計を示してほしい。現在、85,000人を超えている中、資料の信憑性が低いと感じる。リニアインパクトの影響があるはず、どういう影響があるかを示して欲しいが、人口は増えていくと考えている。	②計画に趣旨を反映します。	推計は、社人研推計に基づき2016年に策定した人口ビジョンをお示ししていますが、現状での違いもあるため、人口動向については、精査し、市独自の推計をお示しします。	総務部
10	2	2	将来人口の推計	2027年にリニアが開通予定であるが、栄エリアにあった中心が名古屋駅エリアに移ってきている。本市においては、自然増はなかなか見込めないが社会増は見込めるのではないかと考えており、87,000人ぐらまで増加するのではないかと感じている。	②計画に趣旨を反映します。	同上	総務部
11	2	2	将来人口の推計	第1次総合計画では、平成29年度の人口80,000人から83,000人の予想を、当時の人口増加状況から85,000人にした経緯があるが、結果的に良かったため今回も少し考えてほしい。	②計画に趣旨を反映します。	同上	総務部
12	2	5	土地利用方針	1.暮らしやすく魅力ある土地利用（コンパクト&高質住宅地創出） コンパクト、とはどのようなものを指すのか。質の高い住宅地、とはどのようなものを指すのか。	⑥その他	今回の総合計画では、大きな視点から基本的な考え方（方向性）を示しているものであり、具体的には、総合計画を受け、今年度から策定していく都市計画マスタープランや更には具体的な施策などのなかで議論してまとめていきます。	建設部
13	2	5	土地利用方針	4.都市と農地が共存する土地利用（都市農地） 大多数の就農者は高齢化しており、現実的な意向はここに書かれていることと正反対で活用を求める意識が強い。農地として継続的な維持を目的とするならば、後継者がいないことが非常に大きな問題となっている。その点について述べられていない。	⑥その他	今回の総合計画では、大きな視点から基本的な考え方（方向性）を示しているものであり、具体的には、総合計画を受け、今年度から策定していく都市計画マスタープランや更には具体的な施策などのなかで議論してまとめていくものと考えています。	建設部
14	2	5	土地利用方針	これからのまちづくりを進める中で、資料2の総論の第2章に、「土地利用方針と基本的考え方」があるが、あえて土地利用方針を別立てとするのには何か意味があるのか。土地利用について思い込みが強すぎるのではないかと、分野別まちづくり方針の施策の中に、土地利用方針を含めてはどうか。	⑥その他	総合計画は国からの策定義務が無くなり、自治体の自由な策定となりました。従来の総合計画は、人口動向と土地利用が大きなテーマでしたが、第2次総合計画の変更点として、基本構想に入っていた土地利用を、基本計画の枠で示し、自由度を高くするようにしました。第1次総合計画では、土地利用方針についてゾーン等を示したりしていましたが、そういった具体的な方向性は都市マスタープランの中でしっかりやっていった方が良いとの考え方で、総合計画では基本的な考え方を示すこととし、土地利用については、方針のみではあるが、大事な部分であるため、別立てで記載しています。	総務部

No.	資料	ページ 番号	項目等	意見等 ※総合計画会派別説明会での質疑も一緒に掲載しています	対応の方向性	担当部	
15	2	5	土地利用方針	土地利用の進め方の1番目「暮らしやすい魅力のある土地利用」の部分で、リニアインパクトで北名古屋に住んでもらうためには、敷地の大きな高級住宅地としてやっていく決意が無いと市場も反応しない。審議会には専門家がたくさんいるので、そこできちんと議論して欲しい。職員が方針を示し、議論を深めて欲しい。	⑥その他	総合計画で示す「暮らしやすく魅力ある土地利用」を実現するためには、それに応じた住宅用地に関する施策も必要である。様々な土地の用途とのバランスを踏まえて議論を深めます。	総務部
16	2	5	土地利用方針	2番目の「安心・安全なまち」の中の「遊水機能」は、県が中心の事業であり、北名古屋市の事業としてため池を作るとか独自の事業を考えたことが無い。遊水機能について市がきちんとやる事業を出し、市独自の事業化にむけての議論をして欲しい。	④事業実施の中で検討します。	地面の保水機能が時とともに失われていくなか、市として可能な「遊水機能」を高める施策をしっかりと計画していく必要があり、分野別計画4-4において、課題として記述しています。	総務部
17	2	5	土地利用方針	「企業誘致」について、職員が本気で企業を誘致してやっていくのか、それとも用地を市が用意し民間に任せるのか、不動産に精通した者や各種委員会の意見を聞いて欲しい。	⑥その他	将来にわたる地域の繁栄を見通せるよう、様々な意見を聞きながら決めていかなければならないと思っています。	総務部
18	2	5	土地利用方針	「都市と農地」の土地利用について、生産緑地で現在問題が出ているが、合併の時にしっかりと生産緑地の意義、解除の意義を説明してこなかったことに問題にある。本当に土地と農地の共存させるのであれば、きちんと分けるということで腹をくくらないと、乱開発を防ぐことができない。分けるなら分けるという議論を審議会できちんとやって欲しい。	⑥その他	総合計画審議会に限らず、しかるべき審議会ですっきりとした議論をしていきます。	総務部
19	2	5	土地利用方針	旧西春町では、地域を4つに分け、文教地区やスポーツ地区などと示すことにより、とても分かりやすかったと住民から聞いている。北名古屋市は、2町が合併し、重なる施設が2つある中で、地区により、文教地区やスポーツ地区などと分けをし、拠点となる施設を作っていたらと市民がどこに行けば良いか分かりやすくなると思うので、そういった考えを盛り込んでいただきたい。	④事業実施の中で検討します。	土地利用方針について、第2次総合計画では、今回考え方を示したのみとしています。第1次総合計画ではイメージ図を表し示していたが、今回は、都市マスタープラン作中でしっかりと議論していく予定としています。他の施策についても考え方を示し、詳細については個別計画等で示していきます。細かな部分については、個別計画に反映したいので、ご意見があればそちらへ反映するようしていきます。	総務部
20	2	6	分野別まちづくり方針	(1) 健康・福祉分野 高齢者の単身世帯への対策についてどのように考えているか。介護サービスの需要の増加については述べられているが供給の見通しはどうなっているか。	⑥その他	近年の社会情勢より、核家族はますます進みひとり暮らし高齢者は増加しています。そのため、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯支援の充実を推進するとともに支援の必要な方の早期発見、早期支援に結びつくよう相談支援体制の強化を図ります。団塊の世代が75歳を迎える2025年問題を見据えて計画的に事業所の整備を行っており、要介護者等を支えるに必要な十分なサービスを確保するよう努めていきます。	福祉部

No.	資料	ページ 番号	項目等	意見等 ※総合計画会派別説明会での質疑も一緒に掲載しています	対応の方向性	担当部	
21	2	6	分野別まちづくり方針	<p>(4) 都市基盤分野 土地利用方針で述べられた高質住宅の条件には、緑は必須であると考え。しかしながら現実には市街化区域内の農地に対する宅地並み課税がきっかけとなり、市街化区域内での緑地面積の低下が著しいが、ここで述べられている緑の空間としての農地の確保は市街化区域内の農地確保のことか、それとも市街化調整区域の農地確保のことか？ また、上記以外の方法での緑地面積の確保・誘導策を考えているのであれば、お示しいただきたい。</p>	④事業実施の中で検討します。	<p>都市農地については、昨年の「都市農業振興基本法」の制定により、これまでとは大きく考え方が変わり「宅地化すべきもの」から、都市に「あるべきもの」となり、基本法を受け今年4月に関係する「都市緑地法等の一部改正」が行われたばかりであります。こうした法制度の改正に基づき、具体的には今年度から策定する都市計画マスタープランとあわせ「緑の基本計画」の策定も行っていくものであり、そのなかで整理し具体的な施策などをとりまとめていく考えです。</p>	建設部
22	2	6	分野別まちづくり方針	<p>(5) 産業活力分野 名古屋芸術大学が立地しており、産業面でもデザインなど貢献が期待できる学部も立地している。しかしながらここでは名古屋芸術大学との産学連携など大学リソースの活用は述べられていないがその点についての考えは無いのか。</p>	⑥その他	<p>名古屋芸術大学との連携については、施策の構成から「(5)産業活力分野」ではなく、「(6)協働・行財政分野」で取りまとめています。 名古屋芸術大学とは、本市及び北名古屋市商工会がそれぞれ包括連携協定を結び、今後産業活性化の事業に協力をいただくよう検討していきます。</p>	総務部

No.	資料	ページ 番号	主要施策名等	意見等 ※総合計画会派別説明会での質疑も一緒に掲載しています	対応の方向性	担当部
23	3	—	全体	分野別計画書の主要施策に対する「指標」についての設定は再検討すべきである。なぜこのような指標を設定したのか、主要施策の目的の達成を測る項目として疑問に感じるものが大半であり、計画策定の担当課と各事業課との間で、指標の設定についての考え方の意思疎通がうまくいっていないのではないかと感じさせられた。	②計画に趣旨を反映します。 取組指標については、審議会で議論を深め、必要に応じて見直します。	総務部
24	3	—	全体	それぞれの「施策がめざすまちの姿」と「指標」のかい離がみられる。文言や指標の見直しをすべきである。	②計画に趣旨を反映します。 文言や指標については、審議会で議論を深め、必要に応じて見直します。	総務部
25	3	—	全体	各事業の「現状と課題」は、第1次総合計画の検証結果と理解するが、残念ながら「施策がめざすまちの姿の状況を多角的に測るもの」の「取組指標」に生かされていない。	②計画に趣旨を反映します。 取組指標については、審議会で議論を深め、必要に応じて見直します。	総務部
26	3	全体	第1次総合計画の検証結果	第1次総合計画の計画終了年度を迎え、検証結果を示されたい。第1次総合計画の中身を振り返ると、できていない取組が見受けられた。そういった検証も含め、理解を深めてから意見を出したいため、検証結果を分野別等で示すことができないか、今までやってきたことはどうなのか、第1次総合計画でできなかった事で第2次総合計画に活かしてあることが何かを示すことが可能か。	⑤既に計画に盛り込まれています。 第2次総合計画を策定するにあたり、昨年度関係課において、第1次総合計画の検証を行い、内部での評価を実施しました。検証にあたっては、指標を設定し、その数値の推移を踏まえ実施しましたが、自己評価に留まっています。その内部評価を、言葉で整理したものを、第2次総合計画基本計画の施策毎の「現状と課題」に示し、課題の解決を図るために実施していくことが、主要施策として示しています。その整合性については、審議会で議論を深め、必要に応じて見直します。	総務部
27	3	全体	第1次総合計画の検証結果	検証結果について、例えば現在70%まで進んでおり、残り30%が第2次総合計画に盛り込んであるというような事例があると良い。第2次総合計画では、より具体性が欲しい。第1次総合計画では、言葉でオブラートに包んでしまっており、何をどのようにやっているのかが示されていなかった、何をしていくのか具体的に示されたい。	⑤既に計画に盛り込まれています。 第2次総合計画では、指標を示すとともに、何をどのようにやっていくかは実施計画に盛り込みます。	総務部
28	3	全体	第1次総合計画の検証結果	第1次総合計画の検証について、総合計画の性格でもあるが、施策として具体性の無い取組もあり、第2次総合計画においてもおそらく踏襲しているのではないかと推測する。北名古屋市は合併して誕生した。忘れていけないのは、合併時に新市建設計画を作成し、市民の方に約束をした。未だ達成できていないことがあるはずであり、検証すべきは、新市建設計画と考えている。第2次総合計画を策定にあたっては、市独自のアイデンティティを示して欲しい。	⑤既に計画に盛り込まれています。 新市建設計画の理念を継承しつつ、北名古屋市の独自性と現状を踏まえた第2次総合計画の策定に取り組みます。	総務部

No.	資料	ページ 番号	主要施策名等	意見等 ※総合計画会派別説明会での質疑も一緒に掲載しています	対応の方向性	担当部	
29	3	全体	第1次総合計画の検証結果	第1次総合計画と準拠していると思うが、今回変わっている部分はこういったところか。また、この10年間の振り返りといった大掛かりな評価をどの様にしていくのか。なお、内部評価で留まっているのであれば、今後、第三者評価という手法も検討いただきたい。	⑤既に計画に盛り込まれています。	大きく変わった部分は、第1次総合計画は、基本構想に土地利用や人口推計などが入っていたが、第2次総合計画は将来的な長いビジョンを示す部分のみになっており、この基本構想の部分について議決を予定しています。基本計画の分野別計画では、各施策に「協働の考え方」、「指標」を設定し、目標値を掲げ、将来的に進捗管理を可能にしました。また、昨年夏、市内部で第1次総合計画の評価を実施し、現状、どこまでできており、何が出来ていないかを積み上げ、それを言葉で整理したのが基本計画の分野別計画の施策毎の「現状と課題」です。	総務部
30	3	全体	第1次総合計画の検証結果	第1次総合計画の達成率は、何パーセント位か。また、大きくやり残したものはあると思うが、それは第2次総合計画に含まれていくと思う。合併したとしても、北名古屋市は北名古屋市ですとあるので、総合計画の中で一番大事なものは、市民の皆さんが、日常生活で自分がやっていることがすぐに分かり、すぐに行動できるという事が望まれていると思っている。	⑤既に計画に盛り込まれています。	達成率を数値で何パーセントと表すことはとても困難です。内部的に自己評価はしていますが、指標として表しにくく、例えば住民福祉の増進ということをお金や数値で表すことは困難です。内部的な評価は主観的なものであり、見る人によって変わる評価となっている状況です。取組のできていない部分を踏まえたヒアリングにより、施策毎の「現状と課題」で表しているの、そこから汲み取っていただきたい。	総務部
1-1 健康・医療							
31	3	1	施策がめざすまちの姿	「施策がめざすまちの姿」で、「全ての市民が健康の維持増進を意識して暮らしています。」とあるが、「暮らしています」は「暮らします」と表現した方が望ましい。	③計画に盛り込むことは困難です。	基本計画に示した「施策がめざすまちの姿」は、該当の施策がめざす「まちの状態」を表しており、表現を統一しています。この表現が浸透していくよう、説明をしていきます。	総務部
32	3	3	市民意識調査指標	「施策がめざすまちの姿」で、「全ての市民が健康の維持増進を意識して暮らしています。」と、市民意識調査指標の2027年度目標値は、かけ離れて低い数値であり、整合性に欠ける。	①計画に盛り込みます。	「日ごろから健康づくりを実践している」47.8%の結果に対し、2022年は65%、2027年は80%とします。	市民健康部
33	3	3	取組指標	1-1の3頁の取組指標「3歳児健康診査受診率」は、現状で97.9%であり、目標値100%は必然的数値で、掲げる意味合いは極めて薄く削除すべきであり、目標に設定すべき事業は他にある。	③計画に盛り込むことは困難です。	母親の考えが多様化し、母子の健康づくりの要である乳幼児健診の受診の必要性が伝わりにくく、今後さらに低下することが危惧されます。特に3歳児健診は最も低い状況にあります。この健診では発達障害の傾向の有無を発見し、早期の支援につなげる就園前の最後の健診であるため、100%を目指したいと考えています。	市民健康部
34	3	3	取組指標	「現状と課題」の中で、「特定健診・特定保健指導など・・・参加率の低下や伸び悩みが顕著である・・・」と記載され、2頁の主要施策②「健康づくり・・・の充実」で、各種がん検診や特定健診の受診率を高め・・・とあるものの、健康であるまちをめざすならば、具体的な行動や、各種健診等の取組指標を設けるべきである。	①計画に盛り込みます。	特定健診の受診率は「1-6」に掲載しています。また、新たに「生活習慣病の保有率」の指標を加え、現状33.2%から毎年0.5%の減少をめざし、2022年31%、2027年29%とします。	市民健康部

No.	資料	ページ 番号	主要施策名等	意見等 ※総合計画会派別説明会での質疑も一緒に掲載しています	対応の方向性	担当部	
1-2 地域福祉							
35	3	5	施策がめざす まちの姿	「施策がめざすまちの姿」で、「・・・自分らしい暮らしができています。」とあるが、これも「・・・できます」とすべきであり、これも市民意識調査指標とかけ離れている。	③計画に盛り込むことは困難です。	基本計画に示した「施策がめざすまちの姿」は、該当の施策がめざす「まちの状態」を表しており、表現を統一しています。この表現が浸透していくよう、説明をしていきます。	総務部
1-3 子育て支援							
36	3	10	全体	保育ニーズがなぜ多様化していくのか、また、世帯の構成が変化することでなぜ経済的負担が生じるのかは、働き方・雇用のあり方に影響します。安定しない雇用が増加する社会状況下では、安心して働ける安定的な保育環境が不可欠なので、経済状況に大きく影響することのない公立での保育所運営を維持することが重要です。	③計画に盛り込むことは困難です。	現在、全国的には6割以上の保育所が私立で運営され、公立の民営化も各地で進められています。この動きは、国の施策によるものです。本市においても、老朽化し耐震化が急務な一部の保育園においては、運営費、整備費とも私立保育所に対しての国庫補助を活用して、安定した保育所運営を図りたいと考えます。	福祉部
37	3	10	全体	少子高齢化の最大の原因についてしっかりと掘ってほしい。子どもを生み育てられる環境を充実していかなければならない。それについて市内の就労状況、賃金体系など企業の状況を調査していかないと不安が大きくなり希望が持てない。かつては、終身雇用と年功序列の基で雇用が確保されていたが、それが崩されてきていると感じている。日本の社会の発展の基礎が崩され、もう一回構築することは難しいかもしれないが、若い人が子どもを作り安心して育てられる環境を作るのはどうすればいいのか考えていかないと不安だけが増えていくように感じる。その点についても検討していただきたい。	④事業実施の中で検討します。	北名古屋市総合計画の中で取り組みとして記述できることは限られていますが、わが国全体の問題と考えています。	総務部
38	3	10	全体	少子高齢化問題は、国としてやらなければいけないはずであるが、現在、自治体ごとで医療費や給食費の無料化を競争している状況であるため、頑張ってもらいたい。	⑥その他	リニアインパクトと人口減少については同じことを危惧しており、北名古屋市がどうやって今の状態を維持するのか、質を高めるのかを真剣に議論していかないといけないと感じています。	総務部
39	3	11	取組指標	取組指標「小学校内への児童クラブ設置数」についても、目標値は必然的数値で、掲げる意味合いは極めて薄く削除すべきであり、目標に設定すべき事業は他にある。	①計画に盛り込みます。	放課後子ども教室の開設を踏まえ、児童クラブを市内10小学校に設置し、放課後児童対策の充実を図り、子どもの安全確保及び保護者送迎負担の軽減は急務と考えています。指標に関しては削除します。	福祉部

No.	資料	ページ 番号	主要施策名等	意見等 ※総合計画会派別説明会での質疑も一緒に掲載しています	対応の方向性	担当部
1-4 高齢者福祉						
40	3	13	現状と課題	今後高齢者が増加すると、子育て中の家庭において、同時に高齢者介護に迫られる場合があるが、子育てと介護の両立支援について現状と課題に記載してはどうか。	④事業実施の中で検討します。	福祉部
41	3	14	全体	市民の視点が重要でそれを反映させていくのが大切と考えている。そういった中で、高齢化社会をどうしていくのか、わかりやすく計画に反映させて欲しい。これなら安心して住んでいけるといったことを発信してほしい。	⑥その他	総務部
1-5 障害者（児）福祉						
42	3	17	現状と課題	高齢化が進み。障害者とその保護者も高齢化している状況を現状と課題に記載してはどうか。また、その対策を施策に記載できないか。	④事業実施の中で検討します。	福祉部
1-6 社会保障						
43	3	22	取組指標	取組指標「特定健康診査受診率」「特定保健指導実施率」が記載されているが、1-1に加えるべきである。	⑥その他	総務部
44	3	22	②社会保障の適正な運営	主な取組の「推奨はがきの送付」は、主な取り組みに値しない。	①計画に盛り込みます。	市民健康部
45	3	22	全体	子育ての支援という視点での充実が図られていますが、子どもを主体とした福祉の視点をより強化することが重要ではないかと考えます。子どもの健やかな成長を社会でつくるために、子ども医療費無料化の施策を加え、「子ども福祉」の確立を図るよう求めます。	③計画に盛り込むことは困難です。	市民健康部

No.	資料	ページ 番号	主要施策名等	意見等 ※総合計画会派別説明会での質疑も一緒に掲載しています	対応の方向性	担当部	
2-1 学校教育							
46	3	23	現状と課題	生活困窮者など劣悪な家庭環境などの教育資本のハンディにより、学習意欲を早期に失う子供が増えているという状況を現状と課題に記載してはどうか。また、それに伴う学習支援事業、スクールソーシャルワーカーの配置を施策とできないか。	①計画に盛り込みます。	貧困による負の連鎖を断つこと、並びに「出来ないことへの諦め」から「できることへの喜び」に変えるべく、放課後などを利用して無償の学習支援を行う取り組みを、全小中学校でアフタースクール教室として実施しています。 ③学びのセーフティネットの充実の〈主な取組〉に、『アフタースクール』と『スクールソーシャルワーカーの配置』を盛り込みます。	教育部
47	3	24	③学びのセーフティネットの充実	学びのセーフティネットとして、教育費負担の軽減から無償化へとすすめて、経済的支援の充実をさらにすすめることを求めます。	③計画に盛り込むことは困難です。	厳しい財政状況のなかで、現に必要な方々には教材費等の支援を行っています。教育費負担の軽減については、国、県の施策の実施等経済的支援のさらなる充実をするよう努めてまいります。	教育部
3-1 防災・消防							
48	3	38	①地域防災力の強化	防災リーダーの養成など大人対象はあるが、子どもや家庭を対象とした防災教育の充実を主要施策に加えて欲しい。	④事業実施の中で検討します。	・子ども 小・中学校においては、既に教科の中に盛り込まれております。 市立保育園では、毎月避難訓練を行っております。 ・家庭 出前講座や市の防災訓練に家族ぐるみでご参加いただけるよう、呼びかけをしております。	防災環境部
49	3	38	②大規模災害に備えた施設整備	体育館などの避難所では個人スペースが確保されずに車中避難をする人が多いことから、公園を避難所として使えるよう災害対策機能を備えた公園の配置が、地域ごとに必要だと考えます。	④事業実施の中で検討します。	今後、設置がされる公園は、かまどベンチやマンホールトイレなど、防災を意識した施設の設置がされると考えます。 公園の設置については、資料3の58頁①魅力ある公園や緑地の整備をご参照ください。	防災環境部
3-3 防犯							
50	3	44	②防犯に向けた施設整備	都市基盤整備、インフラ整備が北名古屋市は遅れているのではないかと考えている。防犯部分も遅れており、防犯カメラや防犯灯の整備は進めているがそれ以外のことが進んでいない。徳重周辺がそうだが、ベッタウン化し昔からの家の方が少なくなっており、人と人とのつながりが薄くなっているため怪しい人物がいても知らないため気づきにくくなっている。防犯灯と防犯カメラを見直していただき、台数増やしていただきたい。	⑤既に計画に盛り込まれています。	3-3 防犯の主要施策②防犯にめけた施設整備で防犯灯の設置、防犯カメラの設置支援を記載しています。	総務部

No.	資料	ページ 番号	主要施策名等	意見等 ※総合計画会派別説明会での質疑も一緒に掲載しています	対応の方向性	担当部	
3-4 ごみ処理・資源循環							
51	3	46	全体	今焼却場を作りつつあるが、本市のごみの量は、他市と比べて多いように聞いている。ごみを少しずつ減らしていきたい。1つはレジ袋をゴミ袋として使えるといった試みが他市で行われている。前々から必要に応じてごみが捨てられるように導入をお願いしたいと考えていた。大きいゴミ袋だと何でも捨てられてしまい、特にプラスチック等、何でも捨てられてしまう。また、環境エネルギーで前々から太陽光発電を公共施設につけたらどうかと言っているが、教育施設につけると4階の温度が3~4度下がり、売電もできるので良いのではないか。	④事業実施の中で検討します。	総合計画では言及しませんが、細かなご提言については担当部署でよく研究し、有効な施策が実現できるよう努めます。	総務部
52	3	46	全体	ごみ処理とか資源の確保が出てきているが、今各団体で分別の資源回収をしている。しかし、集積場を持っている所と、公園でやっている所があり、格差が生じている。資源回収時には、子ども達が遊べない公園もある。子どものためにも、また資源ごみを熱心に行う市民のためにも検討していただきたい。小さな団体では道路のふちでやっているのでもそういった所もきちんとやっていけるようにしていただきたい。そういったソフト面での安心安全を充実して欲しい。	④事業実施の中で検討します。	環境や事情に応じた格差が生じていることは課題として認識しています。事業実施のなかで、できるものから一つひとつ検討していきます。	総務部
4-1 道路基盤							
53	3	50	全体	自転車道を作ってほしい。平坦な地形のため自転車で駅まで利用すれば十分移動可能である。下水道整備は、現在30%程度しか進んでいないためなるべく早く進めてほしい。	④事業実施の中で検討します。	自転車道につきましては、道路の拡幅を伴いますので、今後10年の計画とすることは困難と考えます。下水道整備促進は、安全・快適の追求を念頭に実現可能な計画を策定します。	総務部
54	3	50	②道路網の整備	都市計画決定した道路が50年経過している。さらにそれを50年延長するのか、そういったことも議論して欲しい。	④事業実施の中で検討します。	大きな環境要因の変化が生じた際には、変更を生じる必要があるものと考えております。	総務部

No.	資料	ページ 番号	主要施策名等	意見等 ※総合計画会派別説明会での質疑も一緒に掲載しています	対応の方向性	担当部	
4-3 公園・緑地・緑化・景観							
55	3	58	①魅力ある公園や緑地の整備	子どもから高齢者まで憩える公園整備は、地域のコミュニティが生まれる場所の場として、まちづくりの起点にもなると考えます。広く利用されるために、トイレが設置された都市公園の整備は欠かせません。 また、子どもが安全に豊かな遊びを体験できるよう、見守りのある「プレーパーク」の整備を加えることを求めます。	④事業実施の中で検討します。	都市公園の整備は必要なものであり順次整備を進めています。そうした事業実施のなかで、具体的な公園の整備内容や利用の仕方などについても利用者などの意見を踏まえ、関係部署や地域・団体との連携も図り「プレーパーク」などの整備も検討していきます。	建設部
56	3	58	全体	公園は、愛知県の市町村の一人当たりの公園率が北名古屋市は最下位であり、区画整理がしてないといった部分もあり急に大型都市公園ができないのは理解できるが、昔から言っている五条川の公園、徳重大山の地区に7200平米の改修地区を利用して大型公園を作りたいといっているが中々できない。五条川の河川もそうだが堤防の護岸の強化を少ししていただいているが大曲といった所は危険であり、県と協力し堤防の強化をお願いしたい。	⑤既に計画に盛り込まれています。	分野別計画の4-3公園・緑地・緑化・景観で主要施策①魅力ある公園や緑地の整備に記載しています。具体的な整備は、計画的に進めてまいります。河川改修は、4-4河川・雨水処理の①治水対策の推進に記載しています。	総務部
4-4 河川・雨水処理							
57	3	62	①治水対策の推進	局所的な豪雨が頻発する昨今、河川整備の長期計画とともに、早期に改善が期待される内水氾濫対策が求められます。年々増す豪雨に対応するため、数値目標を向上し、雨水貯留施設等の整備をさらにすすめることが急務であると考えます。	⑤既に計画に盛り込まれています。	河川改修は、4-4河川・雨水処理の①治水対策の推進に記載しています。	建設部
5-3 工業							
58	3	70	取組指標	「施策がめざすまちの姿」で、「地元企業が活躍し、地域に新たな産業が生まれています。」は良いが、指標には新たな産業の姿が浮かんでこない。	⑤既に計画に盛り込まれています。	商工会と連携して展示会・商談会への参加支援を行うことにより、地元企業の新たな活躍の場の創出や、新たな企業の進出に伴う、新たな事業連携の場の提供を行うことで、地域に新たな産業が生まれていくと考えています。取組指標については、新規企業の立地件数としています。	建設部
6-1 コミュニティ・市民活動							
59	3	72	全体	市としての取扱が不平等になっている自治会の在り方を見直して欲しい。併せて町名変更のあり方、鹿田は3000番台もあり、市になって何も手を付けずにきている。名古屋市との合併が進んでいった時に、北名古屋はどういう地域だという話になるので配慮してほしい。取り掛かりは無理かもしれないが、結論まで出すぐらいまでの検討を進めていただきたい。	④事業実施の中で検討します。	新たな地域コミュニティのあり方の検討や有効な土地利用・基盤整備を進めるなかで、実施について検討していきます。	総務部

No.	資料	ページ 番号	主要施策名等	意見等 ※総合計画会派別説明会での質疑も一緒に掲載しています	対応の方向性	担当部	
60	3	72	全体	<p>少子高齢化対策がとても大切であり、解決策としてハード面のことについては書かれているが、根本の原因として、閉塞感を皆が感じていることが一番であると感じている。それは将来の不安などからきていることだと感じている。これを打開できるソフト面の関係で何か考えているかをお聞かせいただきたい。日本は、GDPが世界TOPクラス、寿命も世界TOPクラスなのに、とても閉塞感があり不思議である。ちなみにフィリピンの所得は1/10以下、平均寿命も60歳なのに、みんなにここしている。その違いは楽観的である国民性にあると感じた。楽観視と閉塞感はつながっていると思うので、そういった観点を含めソフト面の取組を進めていただきたい。</p>	⑥その他	<p>ソフト面でいえば、生きがいが課題であると思います。高齢者の方に、お話いただいたり、活躍いただく場を設けたりしていますが、これを若年層にも拡大していくことが重要と感じています。北名古屋市に青年会議所という団体ことができましたが、若い方たちがオフの時間にいきいきとした活動ができることにより、生き方の価値が高まると感じています。総合計画に記述はありませんが、そういった考え方は必要と感じています。</p>	総務部
6-4 行政経営							
61	3	82	全体	<p>人口推計で、今後少子高齢化でまちづくりということで、更に行財政改革のことも書いてあるが、人口減少で問題となるのは労働力の確保であり、他市で既に導入している宅配ボックス等による支援が必要と思っているが、そういった視点、考えが必要ではないか。</p>	④事業実施の中で検討します。	<p>人口減少に対応する視点は必要と考えます。宅配ボックスの支援という細かく具体的な事業については、総合計画で扱うのではなく、事業実施のなかで検討していきます。</p>	総務部
62	3	82	①行政サービスの充実・適正化	<p>施策の「地域福祉」の部分で、市民意識調査の「満足度」の福祉サービスの分かりやすさについて低い結果が出ている。現状、市民の相談を受ける中で、市役所の窓口が分かりにくいという相談を受ける。今後、分かりやすくするための改善されていく方針があれば進めていただきたい。</p>	④事業実施の中で検討します。	<p>いかに高い行政サービスを進めていくのかというところで、施策の「6-4行政経営」の分野で示しています。市民目線に立った窓口サービスを充実していきたいと考えています。</p>	総務部
6-5 多様な連携							
63	3	85	現状と課題	<p>合併協議は西春日井郡7町の合併検討から始まっており、7町合併であれば、スケールメリットがあったと思う。自治体規模を考えると今後は、北名古屋市単独でいくのは困難も予想される。そのため、現状と課題に、自治体規模を検討することを記載してはどうか。</p>	②計画に趣旨を反映します。	<p>6-5多様な連携の現状と課題の2つ目の●に同様の趣旨が記載されていますが、今後自治体規模の検討は重要と考え、それに対応する主要施策「③広域行政の推進」の＜主な取組＞の3つ目の○を「名古屋大都市圏を意識した名古屋市との合併の検討」に変更します。</p>	総務部
64	3	86	全体	<p>資料1に示された「計画に求められる視点」により、基本構想や基本計画が練られていると思うが、先々のことを想定するには社会情勢は変わっていく。これまでの10年を土台に計画を作って欲しい。合併について言えば、北名古屋市独自の計画と、もう一方合併検討という形で、軸が2つになってしまうと思う。リニアインパクトについてもどのような影響があるか不明確な中、検討段階で分からない事を盛り込むことにより不安定さが残らないような計画を作成していただきたい。2本の軸にならず、北名古屋市独自の計画として進めていただきたい。</p>	⑤既に計画に盛り込まれています。	<p>総合計画は、北名古屋市としての地域を考える計画となっています。他団体との関係については、基本計画の「6-5多様な連携」の主要施策の中の「③広域行政」で記載をしています。また、リニアインパクトについては、名古屋市や清須市や豊山町と格差が生じないように1つ目の●で連携や広域行政について記載しています。合併については、ここから先の世の中の流れに応じて、大きな格差が生じないように注視し、取組を進めます。</p>	総務部

No.	資料	ページ 番号	主要施策名等	意見等 ※総合計画会派別説明会での質疑も一緒に掲載しています	対応の方向性	担当部
65	3	86	全体	<p>自立と協働のまちづくりが第1次総合計画では謳われていたが、今回は協働と連携のまちづくりとなっている。先程の資料から見ても人口は減っていき、市民との連携や広域連携が重要なのは様々な所で言われている。少子化問題で言えば、待機児童や保育所問題は様々な地域で問題は違ってきており、同じ言葉であっても問題は違う事が多い。協働していくNPO、市民活動の方々が、新市が誕生した時から考えると活動が変わってきている。連携をしていくことを考えるのは今後10年を考える中で重要になってくる。そういったことで市民の方の意見を聞いていただきたい。10年間の歴史だけでなく、私たちが住むこの地域は変わらない。地域のベストを作れる形で話をしていただきたい。審議をしっかりと進めていただきたい。</p>	<p>②計画に趣旨を反映します。</p> <p>今後近隣自治体間での、人口の奪い合いはあまり意味が無いと考えています。人口減少時代では圏域全体を活力あるものとするため、自治体間の連携がますます必要となっていくと考えています。また、市民との連携として、協働の考え方を全ての施策に掲載したのは今後10年を考えると行政だけは立ち行かない部分もあり、高齢者介護は包括ケアなど協働が必要であり、すべての施策でも重要と考えています。</p>	総務部